

霞深しと謳われる、春爛漫の季節を迎えています。四月は新しい息吹に燃え立つ心を抑えにくいものです。一節、一節の成長を望むものでもありません。梅・桜から始まり、今から色々な花が咲き誇り、我々の目を楽しませてくれます。牡丹・芍薬・百合の花が有名ですが、何といつても一番美しいのは夫婦花でしょう。一家繁栄の花になるでしょう。好きで一緒にいられても、花を咲かすことも出来ずに枯らしてしまう方が昔に比べますと最近は多く見受けられます。国家の花が桜か菊かは知りませんが、肥料を長い事やらずに咲かせ続けているように花も満足に咲かせない状態になりました。日本の人口は大都市に集中し、地方では過疎化が進み、地方の行政が成り立たなくなってしまうと懸念されています。過疎化が進む所では医者も居らず、坊主もおらず、になってしまい、病にも罹れず、死ぬ事もできず、社会から見放されてしまうのです。そして、一人減り二人去りして廃墟の集落となってしまうのです。それでは国は大丈夫かと言いますと、借金が大きく膨らみ雪だるま式に増え続けています。家庭でいえば正常な金融機関から借り入れはできず闇金から借り入れ泥沼に入ってしまう状態です。我々は森羅万象全てに於いて縁を頂いて生きていますと思えます。因があり、縁が生じるのですが、結果を見聞する事が出来る縁の方が分かりやすいのです。自然の恵みを頂けるのも縁であり、心臓が動くのも縁、考えるのも縁、意識して臨むも縁、無意識に行動してしまっても縁、事故も縁、生まれ死ぬまで、亡くなってからも縁と言う事に成ります。善の口も大きく開き、悪の口も大きく開いています。幸も不幸も縁なれば大難は小難に、小難は無難にと神仏に願いを込めているのです。六道を輪廻するのも縁、極楽へ往くのも縁です。縁の無い衆生、無縁は寂しいものです。当山に御縁を結ぶべきかと。信仰の縁が開き家門の繁栄に繋がることを願い日々の報恩感謝、と御礼を忘れず、人間として生きぬきましょう。当山は江戸末期頃の三河国善光寺如来四十八ヶ所巡りの四十六番札所になっています。お地藏さまは岡崎三十六地藏の十六番札所です。善入院のご本尊様の御詠歌は 老松の風の調べも良き道に、入れと教しうる声に通へり」です。まさに、神社、仏閣に詣で御挨拶を致す事でしょう。我々は一つの円の中にいる自分でしかないと思います。私は願う 佛よ見守り賜え、身守り賜え」と。人様々ですが、時代の変遷とともに車や電化製品と利便性は良くなりましたが苦が減ったかと言うと相でもなく、今や生活苦の方が約二百万人もみえ悲鳴を上げているのです。国の繁栄を何処に求めるべきでしょうか、檀信徒の方々が苦界に身を沈める事無き様祈念致しておりますが、何卒十九日の地藏尊大祭六道巡りに参加し印を頂いて下さい。

四月一日

善壽男善入院油掛地藏尊